

マイコプラズマ肺炎過去最多！早期発見が大事

国立感染症研究所によると、2024年10月27日までに報告されたマイコプラズマ肺炎の感染者数は9週連続で増加し、1つの医療機関あたり1週間に2.49人と過去最多を記録しました。

かぜと見分けるポイントは「長引く乾いた強いせき」



マイコプラズマ肺炎は、**子どもを中心に若い世代に多い**、細菌によって引き起こされる呼吸器の感染症です。発熱、全身のけん怠感（だるさ）、頭痛などの初期症状はかぜとよく似ていますが、「**乾いた強いせきが長く続くこと**」が特徴です。軽症で済む人が多いですが、ただのかぜだと思って放っておくと、重症化したり、合併症が起きたりすることがあります。マイコプラズマ肺炎には、かぜ薬は効かず、抗菌薬で治療します。

乾いた強いせきが1週間続いている場合は、早めに病院を受診しましょう。



「マスク」「手洗い」「換気」などで感染を予防しよう

飛沫感染



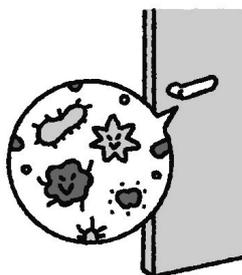
咳やくしゃみでとびちった飛沫を吸い込む。

予防するには



マスクや咳エチケット。うつさないことも大事。

接触感染



ウイルスのついた物を触った手から口や鼻に入る。

予防するには



手をよく洗ったり、アルコールで手や指を消毒。

マイコプラズマ肺炎は、感染から発症までの潜伏期間が2～3週間と比較的長く、その間に気付かないうちに感染が広がる恐れがあります。感染者のせきのしぶきを吸い込んだり（飛沫感染）、感染者と接触したりすること（接触感染）により感染します。**マスクの着用や手洗い、換気といった基本的な感染対策を徹底し、予防をしましょう。**

11月8日は
いい歯の日

セルフケアとプロケアで健康的な歯に！

日常的なセルフケア

自分自身で歯ブラシやデンタルフロスなどを使ってプラーク（歯こう）を落とす



定期的なプロケア

歯科医院を受診してプロによる歯石とプラーク（歯こう）の除去をもらう

